



鳥羽市は「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標としています。

とばし教育委員会だより

2020. 1. 1

第18号



11月23日(土・祝)、鳥羽市青少年育成市民会議主催「みんなで凧作り教室」が開催され、親子連れなど12名が参加しました。

それぞれ思い思いの絵を描き、竹ひごの貼り付けやタコ糸を結ぶ作業ではお父さんやお母さんの助けを借りながら作成しました。また作業が終わった子どもたちに大凧の色塗りにも協力をいただき、三重国体のキャラクター「とこまる」の大きな凧が出来上がりました。

1月3日(金)には鳥羽高校のグラウンドで第19回新春凧揚げ大会が開催され、思いをのせた凧が空へ舞い上がります。当日は伊勢エビ汁やぜんざいのふるまい、また子ども抽選会がありますので是非ご参加ください。

1月3日(金) 10:00 ~ 12:00 ※雨天の場合は4日(土)

小学5年生

とばっこ検定 海女ウォークラリーに挑戦

これから「国際観光文化都市・鳥羽」の担い手となっていく子どもたちには、物事を地球規模の目線で考え、地元で行動に移していく力が求められることから、市では英語教育の充実に加えて、地域の歴史や文化に触れる機会づくりに努めています。

昨年、小学4年生から始めた「とばっこ検定」を今年度は5年生にも広げました。その様子を紹介します。

まずは学校で海女文化について学習

5年生は社会科の授業の中で水産業や環境問題についても学ぶことから、合わせて本地域の漁業形態の1つである「海女」について学習しています。

4年生時に「御木本幸吉」学習でも活用した歴史学習本「とばっこ探偵団」を活用し、海女の歴史や漁の様子、海への信仰など、「海女文化」について幅広く学んでいます。

海の博物館の学芸員による出前授業を実施した学校もありました。



検定当日 市立海の博物館で館長さんから鳥羽の海についてお話を聞きます



5年生は机上での検定ではなく、実物資料にふれられる市立海の博物館での「ウォークラリー」を検定と位置付けて実施しました。

まず始めに海の博物館の館長から説明を受け、鳥羽が「日本で一番海女さんの多いまち」なのは、海藻が茂る豊かな海のおかげであることを確認しました。また、海女さんたちがアワビなどを獲りすぎないようにルールを決め、自然環境を守りながら漁をしていることを学びました。

いよいよウォークラリースタート

個人ではなく、グループでのウォークラリーを実施しました。どの班も役割分担しながらパネルから必要な情報を読み取り、協力して答えを探し出していました。

また、実際に海女さんが使っていた昭和の海女小屋に入ってみる、石のおもりを持ち上げてその重さに驚くといった、実体験をしながら海女の仕事を肌で感じることができました。



【感想の一部を紹介します】

- ・海女さんのことはよく知らなかったけど、とばっこ探偵団の本を読んだらよくわかったのがうれしかった。
- ・(アワビなどが)海藻にかくれているのを50秒で獲っていてびっくりしました。
- ・昔から機械も使わず、体と最低限の物しか使わないというのがすごい。
- ・(海女さんの魔除けの印である) ドーマン・セーマンは、ただのマークなんかかなと思っていましたが、思いがこめられているんだなと思いました。
- ・ウォークラリーで仲間と協力してやるのが楽しかった。



海の博物館 冬の体験企画を
開催します。(事前申込必要、有料)

昔の道具で海苔すき体験
カキむき体験と簡単カキ料理

とき1月26日(日)・2月9日(日) 11:00～14:00

とき1月19日(日)・2月2日(日)・16日(日)・3月1日(日)11:00～14:00



奥村 楠治さん

令和元年10月に教育委員に就任。スポーツを通して地域のコミュニティ作りに貢献し、石神さんマラソンの運営や町内会の活動に携わる。長岡スポーツ文化クラブ会長、鳥羽市スポーツ推進委員、鳥羽市体育協会評議員、三重県スキー連盟教育本部検定委員長、相差町内会委員

「子どもたちの可能性」

「我が生涯に一片の悔いなし！」これはお父さん世代では有名な北斗の拳に出てくる長兄ラオウの名ゼリフ。

私は、総合型地域スポーツクラブ（長岡スポーツ文化クラブ）の会長をしています。総合型地域スポーツクラブとは、多世代の人が多種目の競技を楽しむスポーツクラブです。長岡地区では2007年から始まっています。他ではない特徴は文化が入っているところです。

田舎の場合、スポーツや習い事などがしたければ他の地域に通う事になるのが現状です。でも長岡地区では、子どもから大人まで陸上・サッカー・卓球・バドミントン・テニス・ソフトバレー・バスケット・ドッジボール・健康体操・野球塾・鳥羽物語などのスポーツ教室や理科教室・書道・相模伝統文化教室などの文化教室を楽しむことができます。秋には熊野古道ウォーキング、冬はスキーツアーも行われます。特に、子どもたちには色々な機会を提供し地域で育んでいきたいと考えています。

トや専門性の高いことまでは教えられるけれど入口の所は提供していく。その先を目指すなら専門性の高い所を紹介する。そんなスタンスで運営しています。

子どもにはその子のポテンシャルがあります。今見えているものから将来見えてくるものまで。それをいかに周りの大人が高めていき、その後本人がどう広げていくか。その後本人がどう広げていくか。福岡堅樹選手は南アフリカ戦終了後「何一つ後悔はありません」と言っています。

今の子どもたちが将来そう言える様に周りの大人・指導者が見守ってあげるようにしたい。子どもたちには、アスリートスポーツや生涯スポーツなど色々なスポーツの楽しみ方を知って欲しい。その他の事でも色々な才能が秘められていることを知って欲しい。そう、悔いなし！と言えるように。



♡ 楽しいよ♡鳥羽スキー・スノボ教室♡

雪になじみのない鳥羽で「子どもたちに冬のスポーツを楽しませてやりたい」と、立ち上がった大人たちがいました。それが、半世紀も前から今も続いています。小・中学生等が、3泊4日で長野方面に出かけスキー・スノボを体験します。初めての子は、何度も何度も尻もちをつきながらも、みるみるうちに上達していきます。「先生、見て!!こんなに滑れるようになったよ!」と、満面の笑顔で披露してくれます。リピーターは、オリンピック選手のように華麗に滑ります。最終日にはポールを滑り、バジジテスト（全日本スキー連盟検定）があり、それぞれの級をもらいます。満足げな子、悔しそうな子、様々な姿があります。



また、宿舎に戻り夕食後は、学年の枠を超えてゲームやドッジボールをし、賞品のお菓子争奪戦で盛り上がります。

あなたも、鳥羽スキー・スノボ教室に参加して、一緒に楽しみませんか！お待ちしております。



市民みんなで力を合わせ、鳥羽の教育を高めていきましょう。さまざまな分野の方にその熱い思いを語っていただきます。今回は、新教育委員の登場です。さあどうぞ！

令和元年度分高校生通学補助金申請を受付します。

2月3日から申請を受け付けます。定期券の写し等通学の証明になるもののご準備をお願いします。くわしくは、広報とば2月号にてお知らせします。

神島っ子ガイド

神島小学校

6年前から、神島小学校の子どもたちが、いろいろな方々に島内の名所などを紹介する取組をしています。それが「神島っ子ガイド」です。神島には、観光名所がたくさんあり、また、観光客もたくさん訪れます。その地域性を活かして、「地域のことをよく知り、地域に愛着を持つ心を育てたい」と、「相手にわかりやすい説明を工夫すること」で、コミュニケーションの力を付けたい」というような願いから始まりました。その時、その時でガイドする相手が変わり、相手がどういう人か考えて、ガイドする必要があります。通常、主な活動は年間2回ですが、今年度は4回活動しました。その内訳は、「東南アジア研修生」の方々、「兵庫県三田市の母子小学校」の4・5・6年生、「海島遊民くらぶ」の協力を得て一般公募したガイドフェスティバル、そして今年度研究発表会に参加して下さった教育関係者の方々



です。外国人あり、小学生あり、一般の大人あり、教職関係者ありと、バラエティに富んでいました。また、その時々で、ガイドだけではなく、交流会をしたり、「島っ子太鼓」を披露したりすることもあります。活動の全てが、「神島に来て良かった」と思っていて欲しい。という「おもてなしの心」がベースになっています。ですから、子どもたちの活動には、手抜きは一切ありません。今年6回目となる一般公募のガイドフェスティバルではリピーターの方も多く、第1回から参加して下さっているという方もいました。もはや、このガイドは伝統になりつつあります。子どもたちの人数が年々減少していく中、なんとかこの伝統を守っていきたいと考えています。

より良い教育環境を提供するために

学校統合計画の進捗と課題

- 1 学校統合の必要性と課題
 - 多様性を求められる時代 (多様な価値観、人間関係、部活動など)
 - 切磋琢磨できる教育環境 (競い合う中で伸びる子)
 - 適正規模化 (教員の適正な配置、効率的な学校運営)
 - 地元の文化や伝統の継承 (町が衰退していかないか)
 - 登下校の安全・安心 (登下校の安全確保や通学に係る児童生徒の負担はどうか)



2 鳥羽市の人口と児童・生徒数の推移予想

	令和元年	令和10年
鳥羽市の人口	18,500人	約15,000人
小学校児童数	701人	約560人
中学校生徒数	424人	約310人

※ちなみに平成30年度の鳥羽市での出生数は94人でした。

人口と児童・生徒数は減少します。

現在、鳥羽市内の小学校は8校(内、5校は複式校もしくは2年内に複式になる予定)、中学校は5校(内、1学年2学級以上あるのは鳥羽東中1校)です。離島も含むので、一概に統合を推進していくことは難しいと思います。人口、児童生徒数規模から考えると、ある程度の統廃合はやむを得ないところです。

一番に保護者、そして、地域の皆さんとしっかり協議しながら慎重かつ丁寧な統合計画の推進を図っていききたいと思えます。

3 「H27学校統合計画」とこれまでの対応

平成27年に教育委員会が発表した『鳥羽市学校統合計画』では、統合検討対象の学校規模を以下の様に定めています。

模を以下の様に定めています。

- 【小学校…全校児童数20人以下】
- 【中学校…全校生徒数30人以下】

この計画に沿った懇談会を次の様に進めてきました。

- 桃取小学校《平成28年 鳥羽小学校に既統合》
- 菅島小学校《平成31年 鳥羽小学校への統合予定を先送り、継続審議中》
- 鏡浦小学校《令和3年 安楽島小学校へ統合を承諾》
- 答志中学校《令和4年 鳥羽東中学校へ地域での懇談準備委員会発足》
- 長岡中学校《令和9年 加茂中学校へ統合時期と統合先について、地域説明会や意見交換会を開始》

4 これからの学校統合の考え方と進め方

各地域での懇談内容を受けて、来年度、「鳥羽市学校通学区審議会」を立ち上げ、鳥羽市全体の統合計画について議論していただきます。審議会からの答申を受けた時点で、市民の皆さんにも広く意見を伺い、令和3年度には、新たな統合計画を発表します。

今後、加茂中学校区、鳥羽東中学校区の皆さんにも各地区での懇談等の進み具合を報告させていただきます。

また、今年度菅島小学校をコミュニティスクールに指定し、学校運営協議会を設置してもらいました。今後、小規模校の運営に関しては地域の方々に主体的にかかわっていただくような制度改革にも取り組んでいきます。



ご意見ご要望をお寄せ下さい